

# 社会福祉法人ひかり

## 平成29年度 事業報告

### 目次

【法人の理念】	．．．．．	P. 1
【法人の使命】	．．．．．	P. 1
1. 法人運営について	．．．．．	P. 2
2. 社会福祉法人指導監査について	．．．．．	P. 3
3. 経営会議について	．．．．．	P. 3
4. 職員の退職・入職について	．．．．．	P. 4
5. 施設設備の整備について	．．．．．	P. 4
6. 情報発信力の強化について	．．．．．	P. 4
7. 人材育成および資質向上について	．．．．．	P. 5
I. 東戸塚地域活動ホームひかり		
1. 日中活動事業	．．．．．	P. 6
2. 生活支援事業	．．．．．	P. 13
3. 相談支援事業	．．．．．	P. 20
4. おもちゃ文庫事業	．．．．．	P. 27
5. 余暇活動支援事業	．．．．．	P. 29
6. 地域交流事業	．．．．．	P. 31
7. 各委員会	．．．．．	P. 33
II. ラフォーレさくら	．．．．．	P. 35
III. 後見的支援センターとつかエコー	．．．．．	P. 40
IV. ホープ川上	．．．．．	P. 42



## 【法人の理念】

「人間らしく生きること」

すべての人が、人間として、その人らしく生きることを支援します。

## 【法人の使命】

1. 社会福祉法人設立後、本年は事業開始 11 年目を迎えるが、本年度より施行される社会福祉法人制度改革を受け、法人の根幹となる評議員会の機能改編等を含む定款の大幅改訂を伴った法人経営のスタートです。そのような中でも地域福祉を推進する法人経営・運営の歩みについて振り返るとともに、今日的課題を見すえ、かつ 10 年先を見通しながら障がい福祉に取り組みます。
2. 地域で暮らす障がいのある方々は、QOL（生活の質）を高めるために多様な福祉サービスを望んでおり、支援者は当事者のもっとも身近な相談者であるという立場を自覚し、自尊心と自己決定権を尊重し、合理的配慮にこころがけ、一貫した当事者主権の姿勢を維持していきます。
3. 戸塚区内および近隣区の福祉・教育・保健・医療等の関係機関、団体と連携し、地域福祉の拠点、障がい福祉を支えるネットワーク形成の拠点としての役割を担い、当事者活動等を積極的に支援するとともに、地域社会での障がいのある方々への理解を促進させるよう取り組みます。

地域福祉に不可欠な“シンプルにつながる”ネットワークを目指すとともに、障害者後見的支援制度のひろがり、基幹相談支援センターの円滑な事業展開、多様性と柔軟性、そして独創性のある地域活動ホームの運営により、障がいのある方々の暮らしを総合的に支えるよう事業を進めます。
4. 社会生活がますます多様化するなかで、職員は常に何を大切にするのか学ぶことを忘れず、障がい福祉をとりまく社会環境の中の自らの立ち位置に問題意識をもち、当事者主体の姿勢を堅持し、当事者に寄り添い生活のし辛さに着目し、日々関わる人たちにとっても、地域社会の変革に臨む信頼感ある良き理解者・良き相談者・求められる人財となるよう自己研鑽に努めます。

## 1. 法人運営について

今年度の理事会・評議員会の開催状況は、以下の通りです。

社会福祉法の改正（平成 29 年 4 月 1 日施行）に伴い、定款に定めた方法により、新たに新役員（理事・監事）を選任し、理事長と業務執行理事を選定しました。

名 称	日 時	内 容
第 59 回 理事会	平成 29 年 5 月 29 日（月） 18:00～19:30	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"><li>・平成 28 年度 事業報告案の件</li><li>・平成 28 年度 決算案の件</li><li>・平成 28 年度 監事監査報告の件</li><li>・経理規程改正の件</li><li>・報酬規程改正の件</li><li>・新役員選任の件</li><li>・評議員会開催の件</li></ul>
第 57 回 評議員会	平成 29 年 6 月 23 日（金） 18:00～19:00	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"><li>・平成 28 年度 事業報告案の件</li><li>・平成 28 年度 決算案の件</li><li>・平成 28 年度 監事監査報告の件</li><li>・理事（6 名）選任の件</li><li>・監事（2 名）選任の件</li><li>・経理規程改正の件</li><li>・報酬規程改正の件</li></ul>
第 60 回 理事会	平成 29 年 6 月 23 日（金） 19:00～19:30	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"><li>・新役員同意の件</li><li>・理事長選定の件</li><li>・業務執行理事選定の件</li></ul>
第 61 回 理事会	平成 29 年 10 月 30 日（月） 18:00～19:00	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"><li>・東戸塚地域活動ホームひかり スプリンクラー設置工事の件</li><li>・就業規則 / 育児・介護休業等に関する規則 一部改正の件</li></ul> 《報告事項》 <ul style="list-style-type: none"><li>・理事長の職務執行状況報告の件</li><li>・業務執行理事の職務執行状況報告の件</li></ul>

第 62 回 理事会	平成 29 年 12 月 1 日 (金) 18:00~19:20	《議決事項》 ・平成 29 年度 上半期事業報告案の件 ・平成 29 年度 第一次補正予算案の件 《報告事項》 ・東戸塚地域活動ホームひかり スプリンクラー設置工事の件
第 63 回 理事会	平成 30 年 3 月 28 日 (水) 18:00~19:45	《議決事項》 ・平成 29 年度 最終補正予算案の件 ・平成 30 年度 事業計画案の件 ・平成 30 年度 当初予算案の件 ・経理規程一部改訂の件 《報告事項》 ・東戸塚地域活動ホームひかり スプリンクラー設置工事の件 ・理事長の職務執行状況報告の件 ・業務執行理事の職務執行状況報告の件

## 2. 社会福祉法人指導監査について

平成 29 年度 社会福祉法人に係る指導監査が実施されました。指摘事項については、改善を図りました。

- ◆日時 平成 29 年 9 月 13 日 (水) 9 時 30 分~14 時 45 分
- ◆担当者 健康福祉局 監査課 係長 1 名および職員 1 名

指摘区分	口頭指摘事項
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 評議員会の招集通知に記載しなければならない事項について、理事会の決議によること。</li> <li>2. 評議員会および理事会の決議について、特別の利害関係を有する者が議決に加わっていないか確認すること。</li> <li>3. 社会福祉法の改正にあわせ、職務権限規程の改正を行うこと。</li> <li>4. 法令に定める事項（定款の内容・役員等名簿・役員等報酬基準）について、インターネットを利用して公表すること。</li> <li>5. 決算附属明細書について、引当金明細書に不備があったので、今後作成には適性を期すこと。</li> </ol>

## 3. 経営会議について

理事長、理事、施設長を構成メンバーとして、経営・運営上の課題検討に加え、理事会・評議員会の準備と開催時期など、毎月 1 回開催しました。

#### 4. 職員の退職・入職について

< 東戸塚地域活動ホームひかり >

【退職】	平成 29 年 9 月	生活支援員	(常勤職員 : 男性)
	平成 30 年 3 月	相談員	(常勤職員 : 女性)
	3 月	生活支援員	(パート : 男性)
【入職】	平成 29 年 4 月	相談員	(常勤職員 : 女性)
	11 月	生活支援員	(パート : 女性)

< ラフォーレさくら >

【退職】	平成 29 年 5 月	生活支援員	(パート : 女性)
------	-------------	-------	------------

< とつかエコー >

【退職】	平成 29 年 4 月	あんしんサポーター	(パート : 女性)
【入職】	平成 29 年 4 月	担当職員	(常勤職員 : 男性)

< ホープ川上 >

【入職】	平成 29 年 4 月	世話人	(パート : 女性)
------	-------------	-----	------------

#### 5. 施設設備の整備（スプリンクラー設置工事）について

消防法施行令の一部改正により、小規模・大規模に関わらず、介助がなければ避難ができない高齢者・障害者が多く入居する施設のスプリンクラー設置が義務化されました。

ショートステイを実施している障害者地域活動ホームも設置対象施設となり、平成 30 年 3 月 6 日に設置が完了しました。

- ◆設置場所 東戸塚地域活動ホームひかり  
3 階 一時ケア・ショートステイ エリア
- ◆導入設備 パッケージ型自動消火設備Ⅱ型

#### 6. 情報発信力の強化について

戸塚区のコミュニティ FM 局として、地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」という番組の中で、東戸塚地域活動ホームひかりのイベント情報の発信、喫茶コーナー（ダン）を紹介していただきました。イベント情報の発信では、事前準備をしている日中活動の様子も放送されました。

## 7. 人材育成および資質向上について

外部研修を中心に、関係職員を参加させ、職員の資質向上に努めました。参加した研修については、各事業で報告しています。また、職場内での委員会や担当活動、自立支援協議会や地域活動ホーム合同研修会等、職場内外で様々な役割を担い、受け身ではなく主体者として職場や地域に発信できる力を育てました。

# I. 東戸塚地域活動ホームひかり

## 1. 日中活動事業

### (1) 利用実績

<平成 29 年度>

#### 生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	242	20.2
延利用者数	597	561	638	619	594	609	625	585	596	558	585	640	7207	600.6
利用者数/日	30	28	29	31	30	30	30	29	30	29	31	30	-	29.8
入浴利用人数	30	31	27	26	28	25	30	36	31	29	29	24	346	28.8
送迎利用人数	693	677	729	746	701	700	751	688	699	634	688	771	8477	706.4

#### 地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	20	22	20	20	20	21	20	20	19	19	21	242	20.2
延利用者数	51	49	54	49	48	48	50	53	69	39	45	67	622	51.8
利用者数/日	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.6	3.4	2.0	2.3	3.2	-	2.5
入浴利用人数	4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	3	3	48	4.0
送迎利用人数	20	21	23	21	18	19	21	17	20	19	18	21	238	19.8

<平成 28 年度>

#### 生活介護事業（定員 30 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	19	22	20	19	20	20	20	19	19	20	22	240	20
延利用者数	588	535	647	587	533	576	591	572	550	546	595	654	6974	581.1
利用者数/日	29	28	29	29	28	29	30	29	29	29	30	30	-	29.0
入浴利用人数	32	30	33	32	33	23	33	24	29	24	29	29	351	29.2
送迎利用人数	742	676	787	730	676	741	747	710	679	694	695	745	8622	718.5

#### 地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	19	22	20	19	20	20	20	19	19	20	22	240	20
延利用者数	47	48	54	48	40	46	48	47	46	45	49	52	570	47.5
利用者数/日	2.3	2.5	2.4	2.4	2.1	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4	2.5	2.3	-	2.3
入浴利用人数	4	3	5	4	4	4	4	4	3	4	4	4	47	3.9
送迎利用人数	20	20	22	22	14	21	20	20	18	18	20	22	237	19.7



新卒の利用者 2 名が加わり、年度途中には既卒の利用者 3 名を受け入れました。年間を通じて 4 名の方が退所されているので、3 月末時点の利用者数は、63 名となりました。平成 30 年度は、新卒の利用者 4 名を受け入れ、67 名でのスタートとなります。

実習に関しては新卒、既卒を問わず、多くの利用者を受け入れました。今後も現状に即して、安定した通所利用者の確保を目指します。

## (2) 日中活動全体

### 1) 職員体制

以前は常勤・非常勤問わず、定期的にグループ間の異動を行ってきました。多くの利用者に関わることで理解が深まり、職員各々が支援に幅を持つことができた反面、異動することによって指揮系統に迷いを生じさせてしまったり、利用者も自分が所属するグループの職員は誰なのか、と少なからず混乱してしまう場面もありました。

その反省を踏まえ、平成 29 年度はグループ間の異動を最小限なものとし、安定したグループ運営を優先しました。年度途中で常勤職員が退職することもありましたが全体的には大きな混乱もなく、各グループが概ね安定して日々の運営を行うことができていました。

### 2) ケア会議

毎月開催し、日中活動の連絡事項、事故報告やヒヤリ・ハット報告の検証と改善策および利用者一人ひとりの支援方法について意見交換を行いました。また、年度途中からは「ニヤリ・ホット報告」も行うようにして、利用者のプラスの面（できることや趣味嗜好の発見など）に着目するようにもしました（ニヤリ・ホットとはヒヤリ・ハットとは逆に、職員が利用者と接する中で思わずニヤリとしたりホッとした瞬間の報告）。

宿泊旅行前には安全に実施できるよう職員間で話し合い、当日の流れや注意点を確認することで、利用者のみならず引率職員も楽しめる旅行を目指しました。

支援方法に関しては、欠席が続く利用者へのアプローチ方法や、不穏・拘りの強い利用者への対応などを検討しました。

変則勤務のため参加職員が少ないこともありましたが、次年度も月に 1 度の間隔で開催する予定です。また、ケア会議を通じて、職員間で支援方法について協議し統一化を図りましたが、次年度はより積極的に議論を行い、利用者一人ひとりに対して更に理解が深まるよう努めていきます。

### 3) 土曜余暇活動

年間 6 回の土曜余暇を行いました。

外出企画を 3 回、季節の行事を取り入れた室内企画を 3 回実施しました。どの活動も平日の日中活動では実施が難しい内容で、土曜余暇の価値や意義を示すものでした。利用者やご家族にも定着してきて、前年度より申し込み数も増加しました。

次年度も過去のプログラムを考察し、より良い余暇支援事業として継続する予定です。

#### <開催日とプログラム>

No.	開催日	プログラム
1	5月20日	横浜動物園ズーラシアに行こう
2	7月22日	そうめんパーティー
3	9月30日	横浜トリエンナーレに行こう
4	11月18日	クリスマスリースを作ろう
5	1月20日	煮込みうどんパーティー
6	3月3日	みんなでピザ&ひなあられを食べよう

#### 4) 宿泊旅行

6月と11月に伊豆稲取へ一泊旅行しました。

宿泊施設は、スロープ付きの浴槽があり、車椅子の利用者でもゆったりと温泉を楽しんでいただくことができました。小規模な宿なので食事の内容や、部屋数など、細やかな配慮を受けることが出来ました。二日間とも適度な行程や時間配分で、6月には芦ノ湖の遊覧船、11月には箱根園水族館を楽しんでいただきました。

#### 5) 地域とのつながり

自主製品の販売を通じて地域への発信と繋がりを深める目的で展開していた「T's くらふと+」ですが、一般商業施設における販売の中止などはあったものの、各事業所毎の委託販売のネットワークは残っていて、ひかりの商品も多くの人目に触れる機会を得ることができています。

今後はグループの意義や、拡大、縮小を含めた方向性を再検討していく必要があります。

#### 6) 情報の発信

日中活動利用者、ご家族対象に広報誌「その人らしく」を3ヶ月に一度、継続して配布しました。季節行事や土曜余暇の様子、普段行っている活動や宿泊旅行等の紹介を行いました。文章だけでなく、わかりやすい写真や絵を入れることで、目で見ても楽しい広報誌をお届けしました。毎回発行を楽しみに待っているという声もいただきました。来年度も様々な情報を発信していきます。

## 7) 実習生の受け入れ

高等部3年生5名と体験実習の2年生を1名、既卒者3名の計9名を受け入れました。

No.	実習			性別	学校名<学年>	居住区	目的
	月	所属	期間				
1	6月	DEM	5日間	女性	保土ヶ谷養護学校3年	戸塚区	進路
2	6月	ペガサス	5日間	男性	鎌倉養護学校3年	戸塚区	進路
3	6月	フェニックス	5日間	男性	本郷特別支援学校3年	戸塚区	進路
4	7月	ペガサス	4日間	女性	上菅田特別支援学校3年	戸塚区	進路
5	10月	フェニックス	10日間	男性	既卒	戸塚区	通所
6	11月	カシオペア	10日間	女性	既卒	戸塚区	通所
7	11月	DEM	10日間	女性	既卒	戸塚区	通所
8	11月	ペガサス	1日間	男性	東俣野特別支援学校2年	港南区	進路
9	1月	カシオペア	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校3年	港南区	進路

### (3) 各グループ

#### 1) DEM

12月に既卒の女性利用者1名を受け入れ、女性利用者1名が退所された為、3月末時点で計9名（男性5名、女性4名）の在籍となりました。

6月に進路実習、11月に既卒者実習を受け入れて、それぞれが通所利用に繋がりました。

地域の中でパン工房としての認知度が高まり、日々の予約や焼き菓子の注文、区内各種イベントへのパン出品が増えました。それに伴い、利用者と共に職員の作業負担割合も増える傾向にありました。

9月には川上北小学校個別支援級の生徒との共同体験について提案をいただきました。小学校でのサツマイモ堀り、ひかりでのクッキー作りを軸に生徒と利用者間で交流を重ねて行き、共同作業を体験することで物事を伝える楽しさを実感し、相互の距離感が縮まっていきました。

年末と年度末には利用者の慰労を兼ねて「一日外出」や「納め会」を行い、日々の活動の励みになるよう楽しい時間を過ごしました。

#### 2) フェニックス

11月に既卒の男性利用者1名を受け入れ、3月末時点で、計17名（男性11名、女性6名）の在籍となりました。

活動内容は、缶潰しと清掃活動を中心に行い、作業毎に分担し、わかりやすい仕事内容にしました。また、潰した缶をリサイクルセンターに運ぶ仕事を通じて、モチベーションを高める取り組みも継続しました。

新規活動に関しては、講師を呼んだアロママッサージや、自主製品作り（くるみボタン）を行いました。

1日外出では、崎陽軒のレストランに行き、コース料理を堪能しました。

その他、利用者個々に合わせた環境作りでは、無理のない時間配分での作業やお互いリラックスできるような配置に心掛け、楽しく活動に参加できる雰囲気作りを行いました。

### 3) ペガサス

12月に男性利用者1名が退所されたため、3月末時点で計9名（男性4名、女性5名）の在籍となりました。

活動内容は、ストレッチや体操等、身体を動かすプログラムを主軸に行い、定期的に体重測定も実施しました。また、利用者と一緒に月間プログラムを作成し、季節にちなんだ行事（お花見・七夕・ハロウィン・初詣等）を取り入れました。活動に対する意識が高まり、前向きに取り組まれている様子が見えられました。その他には、前年度に引き続き近隣施設へのチラシ配りやDEM製品の配達を行い、地域との交流に繋がりました。

1日外出に関しては、10月に「羽田空港」へ行きました。間近で飛行機が飛ぶ様子を見物したり、外食やショッピング等を楽しまれていました。

### 4) カシオペア

5月に既卒の男性利用者1名を受け入れましたが、11月から12月にかけて男性女性の利用者各1名が退所され、3月末時点で計21名（男性11名、女性10名）の在籍となりました。

活動内容は、主軸として「かみすき」「マーブリング」「フェルト」「ビーズ」等を中心に製作を継続したことで、「ものづくり」から達成感を得られていました。また、注文も多く頂けたことや、親子連れのリピーターさんも増え、多くの方に手に取っていただけるものを作れるようになってきたと思います。

「レジン」の活動では、新規に新しい型を購入し、製作意欲も刺激を受けて取り組まれていました。

新製品の考案にもさまざまな意見や感想を出してくださり、毎日楽しく過ごすことができていました。

### 5) ミルキーウェイ

新規の利用者はなく、3月末時点で計7名（男性7名）の在籍となりました。

活動内容は引き続き木工を軸に行い、焼きペンの工程も利用者にお任せして、味のある製品に仕上がりました。

午後は運動不足解消の為、雨天時以外はなるべく外に出る機会を設けました。ダンスやエアロビ等、他グループと合同の活動も積極的に参加しました。

1日外出は年間2回実施し、羽田空港と中華街を満喫しました。

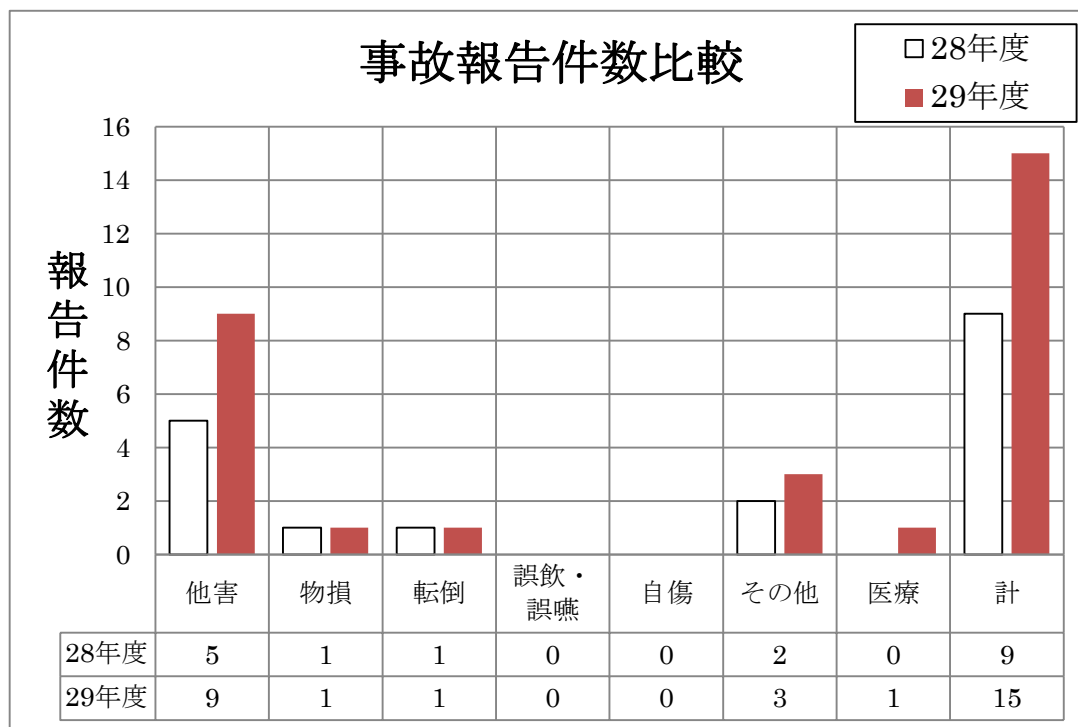
利用者支援では、6月に1名の利用者が夜間眠れない状態となり、1ヶ月ほど入院しました。服薬調整を行って睡眠がとれるようになり、退院後は通所を継続できました。また、活動に参加できていない利用者が1名いますが、ご家族とも定期的

に連絡を取り、本人は役割を任されることでほぼ毎日ひかりに顔を出すことができました。

#### (4) 事故/ヒヤリ・ハット

##### 1) 事故

計 15 件の事故が発生しました。



以下、事故の中から、抜粋して掲載します。

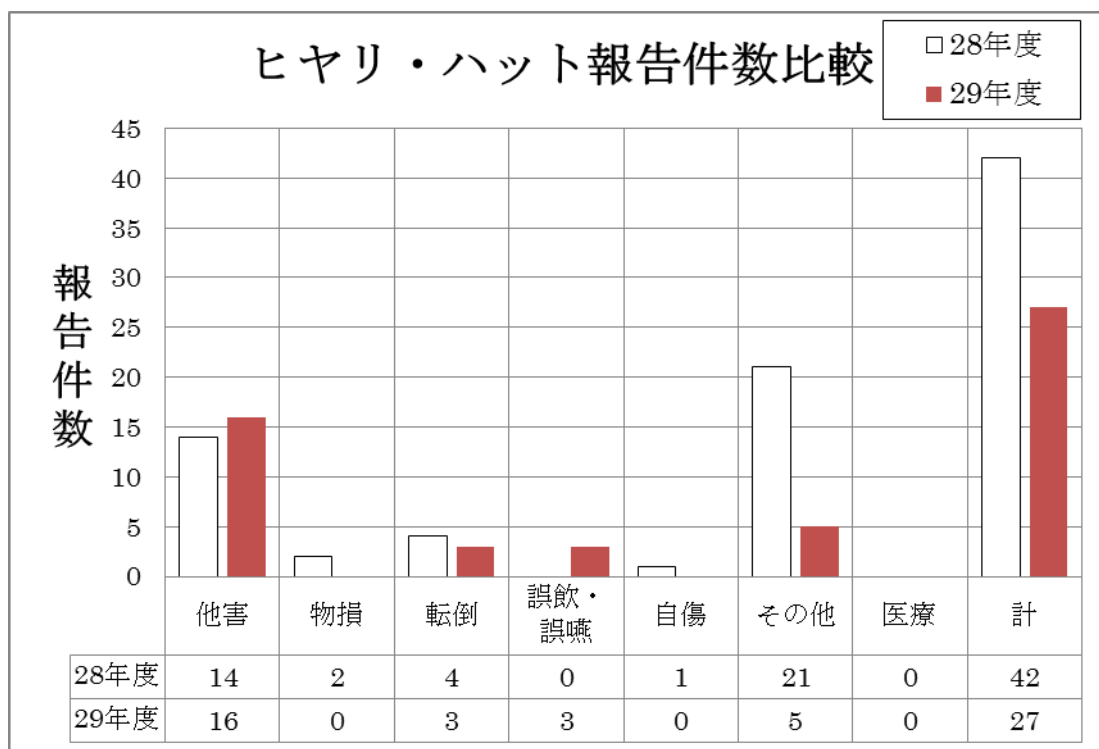
- ・デイサービス中、部屋にいたスタッフが他利用者の対応に当たっていたところ利用者 1 名が室内を出て館外へ走って行ってしまった。  
→利用者の対応中であっても常に他の利用者の動きを視野に入れ、スタッフ間でも連携して情報把握に努める必要がありました。
- ・デイサービス中、作業を提供しようとしたスタッフに対し髪の毛を引っ張る等の他害行為をしてしまった。  
→不穏な状態のときには距離感を保ちつつ対応にあたること、活動への参加意欲が持てる声掛けを工夫することが必要でした。

##### 2) ヒヤリ・ハット

計 27 件のヒヤリ・ハットが発生しました。平成 28 年度と比較して、全体の報告件数は減少しています。大きな事故を未然に防ぐ職員の意識が高まった結果と言えます。

報告件数の内、多かったのは他害(16 件)ですが、その中でも多かったものが職員

に対するものでした。職員が間に入ることで利用者が絡む、利用者同士の事故に発展しないよう環境設定に配慮していく必要があります。



以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

- ・昼食終了後、スタッフと一緒に下膳。利用者が使用したテーブル下（床）に、味噌汁が大量にこぼれていたため、スタッフが床をティッシュで拭いている間に配膳スペースに置いてある他利用者のおかずに手が出てしまった。すぐにスタッフが気づき、腕を止めたので、食べることはなかった。
- ・トイレに行った際イライラされた様子で駆け足で部屋に戻ろうとし、職員に対し爪を立てようとした。帰りの送迎時にもイライラされ、声をかけると爪を立てようとした。

## （５）学習・研修参加

参加した研修は下記の通りです。

No.	月日	研修名	場所	参加者
1	6月3日	第9回 地域活動ホーム合同研修会	横浜市開港記念会館	常勤職員
2	9月19日	法人型障害者地域活動ホーム看護師等巡回相談事業	東戸塚地域活動ホーム ひかり	職員 (ベガス担当)
3	3月8日	現場実習	活動ホーム ふたまたがわ	武藤
4	3月10日	障害者地域活動ホーム、多機能型拠点看護師等会議	金沢地域活動ホーム りんごの森	天野

## 2. 生活支援事業

### (1) 利用実績

#### 1) 一時ケア

平成 28 年度と比べて、延べ時間が 108.0 時間 (2.2%) 増加しました。

放課後の児童デイサービス等を実施する事業所が数年前から区内・近隣区に増え、近年は就学に伴い、それらのサービスを利用することが一般的となってきました。そのため、小学校低学年児童の定期的な利用がなくなりました。一方で、未就学児の頃に当施設を利用し、就学に伴い一時的に利用が途絶えていた学齢児が「ひかりに行きたい」と訴え、本人の息抜きとして利用するケースがありました。

依頼数はほぼ変わりありませんでした。延べ時間が増加したのは、キャンセル数が減少したためだと考えられます。お断り数はやや増加しました。現在は木曜日から日曜日にかけての利用依頼が多く、物理的なスペース不足や、職員の男女比のアンバランスさによる受け入れ体制の整えづらさが生まれました。

#### 【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
～2時間	55	66	78	72	62	78	64	70	74	52	60	70	801	66.8
～4時間	31	27	36	33	30	31	38	38	32	27	28	40	391	32.6
～6時間	14	14	14	22	28	14	21	13	22	15	14	17	208	17.3
～8時間	14	17	14	14	18	13	20	22	10	16	14	22	194	16.2
8時間～	2	3	3	4	3	2	1	1	1	0	1	1	22	1.8
延べ件数	116	127	145	145	141	138	144	144	139	110	117	150	1616	135
延べ時間	366.0	390.5	423.0	461.0	482.5	386.5	472.0	446.0	392.5	354.0	346.5	487.5	5008.0	417.3
平均時間	3.2	3.1	2.9	3.2	3.4	2.8	3.3	3.1	2.8	3.2	3.0	3.2		3.1
未就学児	4	2	3	2	1	5	4	5	11	5	7	7	56	4.7
18歳以下	26	22	27	32	33	20	25	29	31	19	21	28	313	26.1
19歳以上	35	42	42	46	40	49	53	45	37	35	37	50	511	42.6
デイ利用者	14	11	15	17	11	16	16	10	11	12	10	15	158	13.2
戸塚区	34	41	46	49	48	43	52	53	51	35	41	53	546	45.5
保土ヶ谷区	8	7	8	8	9	7	9	6	7	7	6	10	92	7.7
泉区	4	2	2	2	1	1	2	2	2	1	2	2	23	1.9
栄区	4	2	2	4	3	3	3	1	2	1	3	2	30	2.5
港南区	8	8	10	10	6	9	8	8	10	8	8	9	102	8.5
その他区	7	6	4	6	7	11	8	9	7	7	5	8	85	7.1
市外	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0.2
依頼数	153	165	193	183	192	184	180	175	162	135	148	182	2052	171.0
キャンセル数	23	15	20	23	12	16	10	11	11	18	19	11	189	15.8
お断り数	14	23	28	15	39	30	26	20	12	7	12	21	247	20.6

【平成 28 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
～2時間	66	80	76	70	65	65	67	68	68	63	66	76	830	69.2
～4時間	38	30	25	31	24	28	30	32	37	37	33	36	381	31.8
～6時間	15	13	11	23	28	14	18	19	17	19	12	23	212	17.7
～8時間	14	10	9	11	19	12	13	13	11	11	12	18	153	12.8
8時間～	3	7	4	4	1	2	6	3	2	3	0	2	37	3.1
延べ件数	136	140	125	139	137	121	134	135	135	133	123	155	1613	134
延べ時間	426.0	407.5	350.0	440.0	456.5	352.0	433.5	407.5	394.0	405.5	336.0	491.5	4900.0	408.3
平均時間	3.1	2.9	2.8	3.2	3.3	2.9	3.2	3.0	2.9	3.0	2.7	3.2		3.0
未就学児	7	8	5	7	4	8	6	7	6	4	7	8	77	6.4
18歳以下	31	29	22	30	31	23	24	22	26	27	23	22	310	25.8
19歳以上	45	45	41	49	36	38	44	49	47	41	39	50	524	43.7
デイ利用者	17	17	16	21	14	15	16	20	19	17	15	15	202	16.8
戸塚区	47	48	42	54	44	40	52	45	46	43	41	52	554	46.2
保土ヶ谷区	10	7	7	8	8	9	7	7	7	7	7	6	90	7.5
泉区	6	5	4	5	3	5	3	5	6	3	5	5	55	4.6
栄区	2	4	3	3	3	3	2	3	3	2	4	4	36	3.0
港南区	14	13	7	12	7	7	7	10	10	10	9	8	114	9.5
その他区	4	5	5	3	6	5	3	7	7	7	3	5	60	5.0
市外	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.2
依頼数	184	177	162	170	209	154	174	177	170	169	162	203	2111	175.9
キャンセル数	31	28	26	20	50	21	17	15	13	19	19	28	287	23.9
お断り数	17	9	11	11	22	12	23	27	22	17	21	20	212	17.7

## 2) ショートステイ

平成 28 年度と比べて、延べ泊数が 17 泊 (3.1%) 減少しました。減少した要因の一つとして、グループホーム入居に向けた練習として定期的にご利用していたデイサービス利用者が本入居したことが挙げられます。

お断り数が 1.7 倍となりました。現在は金曜日と土曜日の利用依頼が多く、物理的な居室不足が発生したり、勤務シフト確定後の職員配置の調整が困難となりお断りをするケースが増加しました。また、障害特性が多様化してきたことにより支援ポイントの幅が広がり、利用者同士の組み合わせの難しさが目立つようになりました。



【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
1泊	25	28	34	33	35	28	35	36	33	25	27	35	374	31.2
2泊	4	4	2	3	1	3	2	1	2	1	4	2	29	2.4
2連泊	3	3	4	5	3	6	1	4	5	2	2	2	40	3.3
3泊	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.2
3連泊	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	3	0.3
4連泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延べ泊数	39	45	46	49	43	49	44	49	47	31	39	46	527	43.9
18歳以下	3	4	4	6	12	5	5	7	10	4	5	6	71	5.9
19歳以上	28	32	34	35	27	33	33	35	30	24	28	34	373	31.1
デイ利用者	9	8	11	12	9	13	9	8	10	10	8	13	120	10.0
戸塚区	12	22	27	27	25	19	22	23	23	16	21	25	262	21.8
保土ヶ谷区	7	4	4	4	4	4	4	5	4	3	3	5	51	4.3
泉区	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0.3
栄区	3	2	1	2	2	3	2	2	2	1	3	2	25	2.1
港南区	4	5	4	3	4	3	5	4	5	4	2	3	46	3.8
その他区	3	3	2	4	4	9	5	7	6	4	4	5	56	4.7
市外	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
依頼数	49	61	62	68	65	73	57	60	62	46	55	59	717	59.8
キャンセル数	7	4	3	8	7	2	3	3	6	6	7	3	59	4.9
お断り数	3	12	13	11	15	22	10	8	10	9	9	10	132	11.0

【平成 28 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
1泊	30	33	31	36	33	29	29	38	33	30	28	42	392	32.7
2泊	2	2	0	3	2	2	3	1	4	3	3	3	28	2.3
2連泊	2	2	3	4	2	3	2	3	4	5	3	2	35	2.9
3泊	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	0.3
3連泊	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3	0.3
4連泊	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1
延べ泊数	41	41	40	50	44	39	44	49	49	49	40	58	544	45.3
18歳以下	6	5	4	10	7	6	3	5	3	7	3	9	68	5.7
19歳以上	29	32	31	33	31	28	32	37	37	32	29	37	388	32.3
デイ利用者	11	12	12	15	16	13	12	13	17	14	10	13	158	13.2
戸塚区	19	20	18	25	21	20	22	23	26	26	17	33	270	22.5
保土ヶ谷区	5	5	5	7	5	4	6	6	4	3	4	4	58	4.8
泉区	3	0	2	3	1	1	1	2	2	0	2	0	17	1.4
栄区	1	3	2	2	4	3	2	3	2	2	4	3	31	2.6
港南区	4	6	5	3	4	2	2	3	3	2	3	4	41	3.4
その他区	3	3	3	3	3	4	2	5	3	6	2	2	39	3.3
市外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
依頼数	54	45	50	68	65	48	60	68	62	53	54	70	697	58.1
キャンセル数	7	3	4	9	10	4	8	4	9	1	2	8	69	5.8
お断り数	5	1	6	9	6	5	8	15	4	3	12	4	78	6.5

## (2) 登録者数の動向と傾向

新規登録者数は53名でした。現在の総登録者数は912名となりました（登録削除希望の方、住所変更後連絡先も変更となった方、他界された方、計106名を除く）。戸塚区在住の方は62.2%です。

年齢別内訳と居住区別内訳は下記の通りです。

### 【平成29年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
未就学児	0	3	0	1	2	2	0	3	3	2	1	3	20
18歳以下	3	0	0	2	2	1	3	1	2	1	0	0	15
19歳以上	1	3	3	2	2	1	1	1	2	0	1	1	18
延べ人数	4	6	3	5	6	4	4	5	7	3	2	4	53
戸塚区	4	5	2	4	3	2	4	5	4	3	2	2	40
保土ヶ谷区	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
泉区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
栄区	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
港南区	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3
旭区	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

### 【平成28年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
未就学児	3	0	1	1	3	1	2	1	1	1	2	4	20
18歳以下	1	1	0	1	0	1	1	0	0	1	1	2	9
19歳以上	1	0	1	2	0	2	2	2	2	1	1	0	14
延べ人数	5	1	2	4	3	4	5	3	3	3	4	6	43
戸塚区	1	1	2	4	3	3	4	2	1	1	2	3	27
保土ヶ谷区	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4
泉区	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	4
栄区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
港南区	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
旭区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
南区	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
磯子区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

## (3) 支援内容

“遊び”を通して、利用者が持っている能力を最大限に発揮し、それを生活の場面に般化することができるよう支援しました。そのために、登録面談の際に、通学先や通所先での利用者の取り組みや課題を伺ったり、ご利用の都度、困っていることや伸ばしたい部分をご家族から教えていただくことで、ニーズに直結した支援と、利用者の成長に合わせた支援を行うことができました。

平成28年度に引き続き、別室（2階）での受け入れを行いました。利用者の特性や相性を考慮し、別室では主に、未就学児や肢体不自由児・者の受け入れを行いました。

ショートステイにおいては、良眠の確保を第一に、ADL 面の支援や利用者のニーズに合わせて、生活面の支援（食器洗い、寝具の準備等）を行いました。

#### （４）事故

事故 6 件が発生しました。

以下、事故の中から、抜粋して掲載します。

- ・一時ケアを利用。自販機にてコーヒーを買って飲むことを楽しみにしている利用者が、買いに行くまで待っていたイライラや、やっと飲めるという気持ちの昂ぶりからか、職員と楽しげに話していた他利用者の左側頭部を叩く。  
→利用者の心理状態を考えることを怠らず、状態に合わせた環境設定を心掛けます。
- ・一時ケアを利用。利用者同士で横に並んで寝転がっていたところ、一方の利用者が不穏になり、もう一方の利用者を叩く、蹴る。  
→利用者が他利用者との関わりを望んだ場合においても、職員が間に入ることが必要です。また、事前に利用者に対し関わる際のリスクについても説明することも重要です。

#### （５）ヒヤリ・ハット

ヒヤリ・ハット 14 件（支援中 8 件、その他 6 件※）が発生しました。（※その他：受付連絡ミス、送迎ミスなど）

以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

- ・一時ケアを利用。電動車椅子で外出から戻ってきた際、職員が建物内からドアを押さえ、本人が操作をして手動ドアから入ってもらったところ、電動車椅子のタイヤが職員の踵に乗った。  
→一階に職員が不在で、手動ドアから入る場合は、建物の外側からドアを押さえます。また、それが困難な場合は、自動ドアを使用することも検討します。ただしこの場合、利用者から一時的に目を離すことになるため注意が必要です。
- ・一時ケアを利用。外出中、エスカレーターから降りる際に利用者の靴紐が巻き込まれた。  
→利用者の衣類や持ち物の状態についても、その都度確認を行い、リスク回避を心掛けます。

## (6) 部門内連携

平成 28 年度に引き続き月に一度の生活支援部会議を開催し、理事長と施設長も継続して参加しました。内容としては、実績報告や事故/ヒヤリ・ハット報告のほか、新規登録者についての情報共有、既登録者についての現況報告を行いました。なお、この会議で出た提案事項等は、職員会議において、全職員に情報共有しました。また、平成 26 年度に作成した「TC・SS 登録面談者 幼児リスト」を引き続き活用し、おもちゃ文庫と併用利用される方の情報について、職員間で共有しました。

## (7) 部門間連携

直接支援に関しては、日中活動部にも協力してもらい対応しました。発作や食物アレルギー等、特別な配慮が必要な利用者については、受け入れの前に、申し送りを行いました。

平成 28 年度に引き続き相談支援部経由の登録がありました。相談支援部で関わっている既登録者については、適宜、連携をとることにより、利用者の生活状況や通学・通所状況等も捉えるように努めました。

一方で、日中活動事業の見学や通所希望がある登録者に関しては、相談支援部あるいは日中活動部に繋ぎました。また、ケア会議で得た情報の共有を行いました。

なお、緊急利用の受け入れの際には、日中活動部だけではなく相談支援部にも協力を依頼し、受け入れ体制を整えるように努めました。

## (8) その他

利用者の通学・通所先を通じた緊急登録がありました。基本的には事前面談が必要となりますが、保護者の体調不良等により来所してもらうことが難しく、面談をせずに受け入れを行うケースも増えました。そのような場合は、通学・通所先の方にフェイスシートを代理で記入してもらいました。

前年度に引き続き、利用者の放課後の過ごし方や取り組みについて把握するため、自立支援協議会の児童分科会において行われた、放課後等児童デイサービス事業所との意見交換会に参加しました。各事業所の特色や課題などを知ることができ、また、“当施設にできることは何か”を見直す機会となりました。そして、児童分科会の傘下にできた“重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループ”に継続参加し、当事者ご家族と支援者によって構成された“ともに考える会”の《緊急時》をテーマとしたディスカッションに参加しました。当事者ご家族が感じている《緊急時》への思い、施設職員としての《緊急時》の受け入れ体制の現状等を共有することができました。当施設で受け入れを行うことに加え、《緊急時》にできることについて学ぶ機会となりました。また、利用者の通所先での様子を把握するため、戸塚区内の通所施設を 2 ヶ所見学しました。仕事に取り組む様子や集団の中での過ごし方について把握することができました。

主に災害時等に使用することを目的とし、登録者の写真をフェイスシートと共に保管することにしました。今年度末に全登録者に登録内容更新用のフェイスシートを送付・配布し、返信の際に写真を同封してもらいます。

## (9) 研修

職員としての資質向上、能力・技術・知識（ケアマネジメント、コーディネート、カウンセリング等）の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No	開催月	研修名	場所	参加者
1	9月	横浜市障害者後見的支援制度 説明会 (保土ヶ谷区)	ほどがや地域活動ホームゆめ	森川
2	2月	発達障害のある方へのかかわり	横浜市健康福祉総合センター	森川・橋本

### 3. 相談支援事業

#### (1) 基幹相談支援センター

##### 1) 総合的・専門的な相談支援の実施

基幹相談支援センターとして2年が経過しました。全体の相談件数およびケア会議の開催状況は1年目と大きな変動はありませんが、基幹相談支援センターの周知が進み新規ケースの相談が増加傾向にあります。

「戸塚区定例カンファレンス」を活用して、区役所・生活支援センターと新規ケースや困難ケースについて共有し、役割分担および対応の協議を行いました。

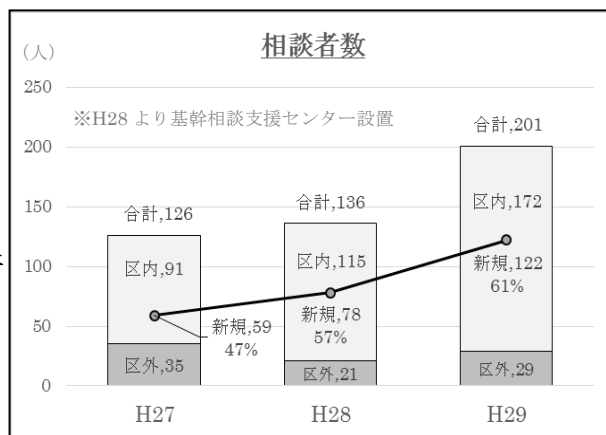
#### <相談件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
29年度	64	62	60	75	58	82	62	78	77	84	89	112	903
28年度	68	103	98	91	98	54	51	56	47	75	74	62	877

#### <ケア会議開催状況>

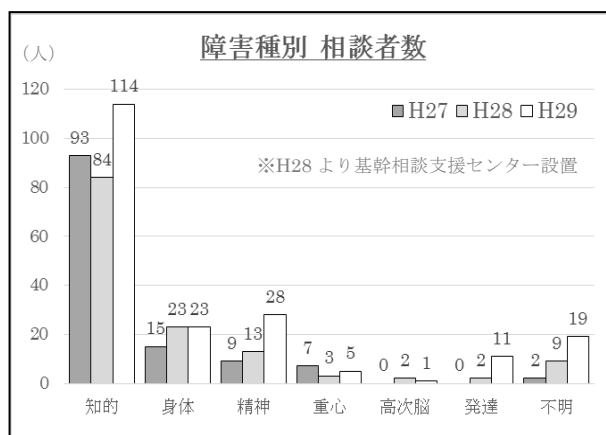
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
29年度	1	5	5	7	5	2	6	4	5	3	7	6	56
28年度	1	3	7	4	5	3	8	4	5	6	3	7	56

平成29年度の相談を受けた実人員は201名となり、前年度と比較して65名増加しています。基幹相談支援センターが設置された平成28年度以降、全体の相談者数が増加し、居住区別では区外の割合が減少。また、全体に占める新規相談者の割合が増加しています。いずれも、各区の基幹相談支援センターの認知度が年々高まっているためと考えられます。



障害種別の内訳としては、精神障害、発達障害、不明（診断なし、手帳未取得、素性を明かさない、他）の方が大幅に増加しているのが大きな特徴といえます。

基幹相談支援センターが担う役割や業務は多岐に渡りますが、個別ケースへの対応は今後も業務の要です。丁寧な対応を心がけていきます。



## 2) 地域の相談支援体制の強化の取り組み

指定特定相談支援事業所から計画相談に関わる個別ケースについて相談を受け、連携を図りました。

自立支援協議会「相談支援部会」を活用し、区域の相談支援の質の均一化とスキルアップを目指しました。具体的には、計画相談における各事業所の体制や今後の見通し・課題の共有、各事業所のサービス等利用計画を確認しながら実践時の工夫や課題の共有、計画相談の実務の確認（相談を受けてから契約、サービス等利用計画作成、モニタリングに至るまでのプロセスについて）、区の社会福祉専任職主導による事例検討等を行いました。2回目以降は新規開設予定の事業所にも参加いただきました。相談支援部会を通して事業所同士の顔の見える関係は構築されつつあります。

## 3) 地域移行・地域定着の促進の取り組み

栄区生活支援センター・栄区基幹相談支援センター・戸塚区生活支援センターと「退サポ検討会」を行い、退院サポート事業について学ぶ他、ケース共有と関連する社会資源の見学を行いました。

自立支援協議会「精神保健福祉分科会」を新設し、初年度は精神分野における地域啓発の在り方について検討を行いました。

## 4) 権利擁護・虐待の防止

成年後見制度に関する研修に参加し、主担当を中心に知識を深めました。また、「成年後見サポートネット」に参加し、講義と事例検討を通じて制度や実務・意思決定支援について学びました。

自立支援協議会「担当者会」にて、法テラスから講師を招いて法律相談に関する勉強会、意思決定支援をテーマとした事例検討会を行いました。

## 5) その他地域の状況に応じた独自の取り組み

自立支援協議会の取り組みとして下記を実施しました。

地域を創る分科会	地域ケアプラザにて相談会と学習会を開催。
地域啓発分科会	イオン東戸塚にて「戸塚区障がい者美術館計画”みんなちがっていいんだよ”」を継続実施。平成29年度より美術作品を常設展示。
児童分科会	重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループにて、「緊急時」をテーマに保護者とのディスカッションを実施。
リスクを考える分科会	災害時の要援護者対策についての紙芝居を活用し、出前講座を実施。

## (2) 計画相談支援

平成 29 年度は 8 名の計画相談支援を実施しました。新規のご依頼を受けることは依然として難しい状況で、必要に応じて他事業所の受け入れについての状況確認や紹介を行いました。

以下の表は計画相談支援を実施している 8 名の年間対応回数です。ご本人の状況変化等により、モニタリング月以外での対応が必要になった方も多く、年間を通して動きがありました。

電話	訪問	来所	その他	合計
81	24	5	6	116

## (3) 関係機関・関係施設との連携・協力

### 1) コーディネーター業務

教育機関からの施設見学や施設研修（社会体験）の依頼に対応しています。

年	月	参加者
平成 29 年	7 月	学校訪問：川上北小学校（ひかり利用者）
		施設見学：川上北小学校（4 年生×4 クラス・教員）
		施設見学：保土ヶ谷養護学校 高等部（保護者）
	9 月	施設見学&体験実習：東俣野特別支援学校 中等部（生徒・教員）
		施設見学：保土ヶ谷養護学校 高等部（保護者・教員）
	10 月	施設見学：保土ヶ谷養護学校 小・中等部（保護者・教員）
11 月	施設見学&体験実習：東俣野特別支援学校 中等部（生徒・保護者・教員）	

川上北小学校 4 年生の施設見学は今年度で 5 回目となりました。地域活動ホームの紹介、グループホームでの生活について利用者インタビュー動画を交えた紹介、作業の体験を行いました。また、利用者が小学校の 4 年生クラスを訪問して夏祭りの宣伝をし、夏祭りでは 4 年生全生徒が描いたイラストを会場に装飾しました。

個別支援級の生徒との交流について提案があり、日中活動部へ対応の依頼を行いました。利用者が学校を訪問して生徒が育てたサツマイモを収穫し、後日生徒がひかりに来所してサツマイモを使ったクッキーづくりを行いました。

見学や体験を通じて、生徒と利用者の交流の機会が創出され、お互いが地域で暮らす身近な存在であると実感できたのではないかと思います。



## 2) 定例会議<外部機関・団体>

戸塚区の身障・知的担当ケースワーカーおよび精神保健福祉担当ソーシャルワーカー、生活支援センター、基幹相談支援センターの3機関連携の場として「戸塚区定例カンファレンス」を毎月開催しました。新規ケースや困難ケースについての共有と役割分担の他、戸塚区全体に関わる事業について共有と協議を行っています。

その他、以下の会議に参加し関係機関との連携や研鑽の機会としています。

会議名	参加機関	開催頻度
戸塚区定例カンファレンス	戸塚区役所 高齢・障害支援課 身障・知的担当および精神保健福祉担当 戸塚区生活支援センター	毎月1回
基幹相談支援センター連絡会	健康福祉局 障害福祉課 基幹相談支援センター 主任相談員	毎月1回
発達障害特定相談ミーティング	発達障害者支援センター 戸塚区生活支援センター 戸塚就労支援センター 戸塚区役所 高齢障害支援課	3ヶ月に1回
成年後見サポートネット	戸塚区役所 高齢・障害支援課 区社協あんしんセンター 地域包括支援センター 神奈川県弁護士会 リーガルサポート神奈川県支部（司法書士会） ぱあとなあ神奈川（社会福祉士会） コスモス成年後見サポートセンター神奈川支部（行政書士会） 横浜市市民後見人バンク登録者	3ヶ月に1回
退サボ検討会	栄区生活支援センター 栄区基幹相談支援センター 戸塚区生活支援センター	2ヶ月に1回

## (4) 部門内、部門間連携

部門内の連携として、相談支援部の会議を毎月1回開催しました。情報共有の他、困難ケースについては施設長や他の相談員からのアドバイスを受けながら支援方針を確認しました。

部門間の連携では、実習生の受け入れ、施設見学、体験実習、デイサービス利用契約などについて、日中活動部と連携して進めました。緊急に入る相談では、一時ケア・ショートステイに繋ぐ必要のあるケースも多く、生活支援部と連携しながら対応しました。

## (5) 戸塚区地域自立支援協議会の運営

自立支援協議会が立ち上がり、9年目を迎えました。

平成29年度は「相談支援部会」「精神保健福祉分科会」を新設し、6つの分科会・2つの連絡会で構成されています。分科会・連絡会活動の活発化を受け、担当者会は平成28年度までの隔月開催から年間3回の活動へ変更しました。

担当学会の年間テーマを「視野を広げよう」とし、6月は二次相談支援機関、10月は法テラスより講師を招き、講義と意見交換を行いました。また、1月には「意思決定支援」をテーマとした事例検討会を行い、知識の獲得とスキルアップに結びました。

新規開設事業所への呼び掛けなど、全てに対応できていない状況もあります。改めて整理をして、新規および過去参加のない事業所への呼び掛けが必要と感じています。

分科会と連絡会の活動には、相談支援部以外の職員も参加しました。

### <活動内容>

会議名	活動概要	参加者	
代表者会	平成29年度の担当学会・分科会・連絡会活動報告、平成30年度の担当学会・分科会・連絡会活動活動予定の説明。	中瀬 荒 芦名	
事務局会議	担当学会の内容確認。各分科会・連絡会の活動状況報告。	中瀬 荒 若杉 芦名	
担当学会	「視野を広げよう」を年間テーマに設定。「人を支援する」をテーマとした講義、法テラス弁護士による講義、事例検討会。	中瀬 荒 若杉 芦名 森川 諏訪	
分科会	地域を創る分科会	地域状況・課題の把握と地域連携を目的に、地域ケアプラザにて相談会3回、学習会2回開催。担当学会での全体事例検討会の企画・開催準備。	荒 林 (宮坂)
	地域啓発分科会	イオン東戸塚での美術作品常設展示の周知と作品募集、入替と拡充。	野口 二見 林
	リスクを考える分科会	災害時の要援護者対策についての紙芝居を活用した出前講座を2回開催。災害以外のリスクについて検討。	岩崎 平 (宮坂)
	児童分科会	放課後等デイサービス事業所との意見交換会。個別支援級教員との連携についての検討。重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループの開催。とことこフェスタ等を通じた支援機関の情報発信および児童作品展示などの啓発活動。	若杉 芦名 森川
	精神保健福祉分科会	各機関の現状や課題の共有を通じた関係性の構築。精神障害分野の地域啓発についての検討。	林 (宮坂)
	相談支援部会	各事業所の現状と今後の見通しの共有。各事業所の“サービス等利用計画”の確認と実践時の工夫や課題の共有。“業務ガイドライン”を参考に計画相談の業務の再確認。区の社会福祉専任職による「鉛筆一本でできる事例検討」の実施。	荒 若杉 芦名
連絡会	グループホーム連絡会	障害者週間シンポジウムに連絡会メンバー・GH入居者が参画し、運営に協力。GHの暮らしを映像化しシンポジウムにて地域へ発信。当事者活動の企画・実施。	三野 平
	日中情報交換会	特別支援学校・養護学校教員との進路に関する情報共有。事業所の現場の取り組みの共有。施設見学会の開催。	諏訪 二木 荒

## (6) 学習・研修参加

相談員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No.	月	研修名	場所	参加者
1	5月	精神保健福祉基礎研修 ～基礎医学編～	開港記念会館	林
2		区役所・基幹相談支援センター向け相談支援研修	開港記念会館	芦名 大石
3	6月	区役所・基幹相談支援センター向け相談支援研修	開港記念会館	若杉 林 荒
4		精神保健福祉基礎研修 ～基礎医学編～	開港記念会館	林
5		相談支援基礎研修	開港記念会館	林
6		発達障害者相談基礎研修	総合保健医療センター	芦名 林 大石 荒
7		成年後見制度基礎研修	健康福祉総合センター	荒
8		自殺対策基礎研修	開港記念会館	芦名 林
9		医学基礎知識セミナー	ウィリング横浜	芦名 荒
10	7月	社会福祉援助技術研修 I	ウィリング横浜	林
11		成年後見制度基礎研修	健康福祉総合センター	林 大石
12		記録の書き方研修	ウィリング横浜	林 大石 荒
13		親亡き後の成年後見研修	横浜あゆみ荘	大石
14		横浜市の福祉施策研修	ウィリング横浜	大石
15	8月	意思決定支援研修	波止場会館	若杉 荒
16		コミュニケーションに関する研修会	健康福祉総合センター	林
17		面接技術研修	ウィリング横浜	林
18		発達障害者の就労定着支援の実際	神奈川総合医療会館	芦名 大石
19		依存症対応研修	開港記念会館	大石
20	9月	花みずきのわかりやすい学習会 「当事者の声を聞くということ」	新羽地域ケアプラザ	芦名 林 大石 荒
21	10月	第一回重症心身障害児支援実務研修	横浜市研修センター	芦名 林
22		地域移行を進めよう！今日からの連携	開港記念会館	林
23		医療・保健・衛生等研修「自閉症の方への関わり」	横浜ラポール	大石
24		相談支援研修 II	市総合医療センター	林

No.	月	研修名	場所	参加者
25	11月	権利を守る勉強会	新羽地域ケアプラザ	大石
26		西区 計画相談研修	ガッツ・ビーと西	芦名 荒
27		第二回重症心身障害児支援実務研修	中央児童相談所	芦名 林
28		成年後見制度中級研修	健康福祉総合センター	大石
29		脳の進化と発達障害について	県総合医療会館	芦名 荒
30	12月	強度行動障害支援力向上研修	横浜市技能文化会館	芦名 大石
31		花みずきの分かりやすい学習会 「はじめての地域アセスメント」	新羽地域ケアプラザ	大石
32	1月	メディカルショートステイを知ろう	健康福祉総合センター	芦名 林
33		発達障害者相談応用研修	横浜市総合 リハビリテーションセンター	芦名 林 大石
34		個人情報保護研修	都筑区社会福祉協議会	林
35	2月	総合保健医療センター 地域精神保健部門見学ツアー	総合保健医療センター	林 大石
36		戸塚区地域施設間連携促進研修会	戸塚区役所	林 荒
37		「ごみ屋敷」対策研修	健康福祉総合センター	芦名
38		医療機関との連携の進め方	ウィリング横浜	林 大石
39		就労支援セミナー in 磯子区	健康福祉総合センター	林 荒
40	3月	個別支援会議の開催等に関する研修	総合保健医療センター	大石
41		基幹相談支援センター向け研修会	鶴見公会堂	林

## 4. おもちゃ文庫事業

### (1) 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	20	20	22	20	20	20	22	20	20	19	19	21	243
子ども	236	232	252	337	268	241	347	281	242	232	234	339	3,241
親	211	209	223	283	214	229	312	250	204	192	209	286	2,822
合計(月)	447	441	475	620	482	470	659	531	446	424	443	625	6,063
平成28年度	630	454	663	720	658	639	694	503	509	526	661	602	7,259

ここ数年は1歳児～2歳児のご利用割合が多くなり、3歳児以上の割合は年々減少していますが、リピーターの親子さんに支持され、地域に開かれた安定した遊び場になっています。

初めてご利用になる親子さんは殆どの場合、友だちや子育て支援者からの紹介により来所されています。少子化傾向は続いていますが開所当時からおもちゃ文庫は地域の方のクチコミに支えられています。

今年度、戸塚地域療育センターを見学しましたが、センターからおもちゃ文庫に遊びに来られる親子さんが増えているように思います。「帰りにおもちゃ文庫に寄ると、親子ともに気持ちや和みます」と話されていることから、親子支援の幅が広がっているのを感じています。

### (2) 課題・検討事項

- ・戸塚区の子育て支援に関するアンケートによると、特に若い世代で支援に必要なのは「場所」「遊び」と答えた人が多かったようです。まず遊び場が必要との結果でしたが、子育て期の孤立を防ぐためにも、親子がお家とは違った空間で遊び、地域の人たちと出会い、親子で笑顔になれる場所であるよう心がけました。
- ・1歳児期は場所に慣れるまで人見知りがあったりしますが、おもちゃ文庫では少人数でゆっくり遊べる空間を作っているため、安心して部屋のなかを探索したり、使いたいおもちゃを見つけたり、スタッフが先走りしないで親子間の遊びが始まるのを待つことも必要と考えました。2歳児、3歳児になると子ども同士で、やりとりして遊ぶ姿が多くなり、自己主張が活発になります。互いの気持ちがぶつかることもあります。声をかけるタイミングを考慮し双方にかかわりました。
- ・地域の方から「おもちゃ文庫はいつも明るく清潔でホッとできる」「シンプルに並べられた遊具に子どもが興味を示し、目的を持って手に取り遊んでいる」と評価をいただく一方、来所者の低年齢化で、大きい子たちの遊びを小さい子が見て学ぶ機会が少なくなりました。特に7～8月は年齢層が広がる時期なので、その場に応じて遊具を入れ替え、異年齢の遊びに幅を持たせるよう工夫しました。

### (3) 遊具・絵本・環境の整備

- ・今年度は遊具や備品の破損、個人の持ち込み品の紛失がありました。公共の場でのマナー、来所者の自己管理についてご協力いただけるよう、ご利用中のお願いをガイドブックでお知らせしていますが、提示の仕方を再度検討したいと思えます。
- ・備品（畳、ブロックマット、トランポリン）の買い替えや新しい遊具（ぬいぐるみ、ままごとセット）、絵本等を購入しました。安全に使っていただくため、備品・遊具の点検表を作成し、状況、修理、結果をスタッフで共有しています。
- ・室内の装飾は季節や行事に合わせて、手作りすることにこだわって展示しています。ひな祭り等の飾り付けは好評で、「〇〇があるよ」と親子の心地よい共感を引き出し、子どもの気持ちの切り替えにも役立っています。

### (4) その他

- ・七夕かざり、ハロウィン、ひな祭り等、親子ミニ工作を実施しました。
- ・とっこの芽、川上北小学校の方々が木のおもちゃの見学をされました。
- ・地区センターまつり（10月28日）土曜日の開室で大勢の親子さんが利用されました。
- ・ご利用中の親子さんが避難訓練（2月9日）に参加しました。
- ・地域交流事業「親子工作とおはなし会」を5回実施しました。

## 5. 余暇活動支援事業

今年度は、計 30 回の余暇活動を実施しました。小学生対象が 4 回、中高生対象が 5 回、小中高生対象が 2 回、重症心身障害児対象が 1 回、成人対象が 18 回でした。

平成 28 年度に引き続き小学生・中高生対象の活動は長期休み（夏休み・冬休み）を中心に開催しました。成人対象の活動は、平日も含めサークル的な活動を中心に開催しました。天候に左右される活動は代替の活動を用意しました。今年度も食事やイベント関連の活動に応募が集中する結果となりました。

小学生の応募が年々減っているため、開催数の削減や開催時期の見直しを行いました。定員割れが目立つ形となりました。一方で成人の応募数は安定しており、学齢児よりも需要があることが分かりました。

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
くっきんぐびかり 〈前期〉 (計 4 回)	6 月 9 日	成人	41 名	5 名	5 名	0 名	3 名
	7 月 7 日				5 名	0 名	2 名
	9 月 8 日				5 名	0 名	2 名
	10 月 13 日				3 名	2 名	3 名
テラスで晩ごはん (計 4 回)	7 月 21 日	中高生	24 名	21 名	5 名	0 名	2 名
	7 月 27 日				5 名	1 名	2 名
	8 月 10 日				5 名	0 名	2 名
	8 月 18 日				5 名	0 名	2 名
屋上プール (計 4 回)	7 月 29 日 PM	小学生	13 名	13 名	2 名	1 名	0 名
	7 月 30 日 AM				3 名	2 名	0 名
	7 月 30 日 PM				4 名	1 名	0 名
DVD 鑑賞会	8 月 7 日	重症心身障害児	2 名	2 名	2 名	0 名	0 名
水族館に行こう	9 月 24 日	中高生	15 名	5 名	4 名	1 名	0 名
動物園に行こう	10 月 7 日	小学生	4 名	4 名	4 名	0 名	0 名
サタデーびかり 〈前期〉 (計 3 回)	10 月 21 日	成人	19 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	11 月 25 日				5 名	0 名	0 名
	12 月 16 日				5 名	0 名	0 名
くっきんぐびかり 〈後期〉 (計 4 回)	11 月 10 日	成人	26 名	5 名	5 名	0 名	3 名
	12 月 8 日				5 名	0 名	3 名
	1 月 12 日				3 名	2 名	2 名
	2 月 9 日				5 名	0 名	3 名
クリスマス会 (計 2 回)	12 月 23 日 AM	小中高生	23 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	12 月 23 日 PM	成人	22 名	5 名	5 名	0 名	0 名
新年会 (計 2 回)	1 月 6 日 AM	小中高生	11 名	5 名	5 名	0 名	0 名
	1 月 6 日 PM	成人	26 名	5 名	4 名	1 名	0 名

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
サタデーぴかり 〈後期〉 (計3回)	1月27日	成人	10名	5名	5名	0名	0名
	2月24日				5名	0名	0名
	3月17日				4名	1名	0名
みんなでカラオケ	2月24日	成人	16名	5名	5名	0名	0名
中華街で食べ放題	3月10日	成人	14名	5名	4名	1名	0名



## 6. 地域交流事業

### (1) 貸室利用実績

#### 【平成 29 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	28	27	24	22	20	29	23	25	25	25	23	21	292
利用人数	257	242	211	199	174	256	211	216	227	236	213	188	2630

#### 【平成 28 年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	28	28	26	30	16	30	27	26	16	28	30	20	305
利用人数	294	242	223	283	177	280	289	265	163	268	288	188	2960

### (2) 体験参加型イベント

おもちゃ文庫をご利用の親子を対象に「工作とお話しの会」を5回、開催しました。集団は苦手、という親子も複数回参加することで、苦手意識から楽しみに変わっていくことが感じられました。

開催月	イベント内容	参加
6月	ハッピーカード	6組
7月	七夕	6組
10月	ハロウィン	6組
12月	クリスマス	6組
2月	バレンタイン	6組

### (3) 他施設・機関主催行事への参加

近隣施設のお祭りや地域のイベントに参加しました。

開催月	施設・参加行事
6月	平戸ケアプラザ(自主製品・パン販売)
10月	戸塚区ふれあい文化祭(作品展示)
11月	戸塚ふれあい区民まつり(自主製品・パン販売)
3月	きゃべつ畑・窓 設立10周年記念公園(自主製品・パン販売)

#### (4) ひかり主催行事

8月に「ぴっかり夏祭り」、12月に「冬フェス」を開催しました。

今年度の「ぴっかり夏祭り」は、天候に恵まれ、開催以来1番と思われるたくさんのお客さまに来所していただきました。昨年に引き続き、地域密着型シンガーソングライターのライブや紙芝居の他、新たにキッズダンスの発表を依頼しました。昨年、雨天のため中止となった盆踊りも開催されました。例年以上に多くのボランティアに参加していただき、地域のたくさんの人・団体の協力のもとに開催されたことを実感しました。

「冬フェス」はひかりで開催される冬の音楽イベントとして定着しました。特別支援学校の教員によるバンドは毎年好評で、今年も沢山のお客さまが楽しみに来所されました。また、以前出演していただいた視覚障害のあるバイオリニストにも2年ぶりに演奏を披露していただきました。アンケート等から、喜びの声や開催の継続を望む声が挙がりました。

両イベントとも、日中活動で準備をしている様子がエフエム戸塚の取材を受け、番組内で紹介されました。

## 7. 各委員会

### (1) 広報委員会

広報誌は、2回（9月・3月）発行しました。内容は、夏祭り・宿泊旅行などのイベントの報告や日中活動のニュース、地域活動支援センター ラフォーレさくらの記事などを掲載しました。一時ケア登録者や外部団体などを含め、約900部発送しています。

ホームページは、トップページを夏祭り・冬フェスの告知で使用し、新たにグループホーム（ホープ川上）とラフォーレさくらのページを作成しました。また、決算報告・事業報告の資料を掲載し、情報発信のツールとして利用しました。

### (2) 保健・衛生委員会

職員・利用者の健康診断を実施しました。宿直業務のある職員については、年2回の健康診断を行いました。

夏季には熱中症予防対策として、送迎車内に経口補水液とスポーツドリンクを常備しました。また、冬季には職員・デイサービス利用者を対象に、インフルエンザの予防接種を実施すると共に、11月から2月にかけて検温を行うことで館内の感染予防に努めました。

備蓄薬に関しては4月の初めに入れ替えを実施しました。今年度は新しく、各グループでまとめられるように備蓄薬の袋を購入し、薬の管理の見直しを行いました。また、持ち出す際のキャリーケースも、以前のものより大きいものを購入し、対応しています。これまでよりも一層、適切に管理することが出来ました。要冷蔵の備蓄薬は、冷蔵庫にて管理し、月に2度掃除を行いました。

その他には、清掃業務を委託している業者に、月1回のペースで施設の階段や床・ベランダ周りの排水口等を清掃していただきました。

### (3) リスクマネジメント委員会

主に災害時の対応をより円滑にする為、事務所内にあるホワイトボードをカメラで撮影し、当日施設内にいる利用者や職員の在籍状況を把握するように努めました。避難訓練に関しては、9月と2月に実施しました。

平成29年1月に開所したホープ川上の避難訓練も今年度より開始され、10月は火災を想定した避難訓練と消火器訓練を行いました。また、2月には消防署所長立ち合いのもと、地震を想定した避難訓練を実施しました。

その他には、新人職員向けの夜間時避難訓練・事務所にある複合火災受信機使用方法や作動時の対応についての研修、災害時用備蓄品の消費期限の確認や処分・補充の管理を行いました。

#### (4) 給食委員会

2 ヶ月毎に委員会を開催し、利用者の食事に関する情報交換、内容の充実、行事の際の食事内容等について検討しました。

平成 28 年度に引き続き今年度も給食業者の調理師が変更となりましたが、引継ぎを確実にし、問題点はその都度情報交換・共有することで一つずつ問題を解決しました。

2 ヶ月毎に募集するリクエストメニューは継続し、利用者の希望をメニューに反映することができました。

## Ⅱ. ラフォーレさくら

### 1. 利用実績（定員 20 名 在籍人数 17 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	20	20	22	20	19	21	21	20	21	18	21	21	244
延利用者数	223	232	240	223	203	226	238	219	227	198	234	238	2,701
利用人数/日	11.1	11.6	10.9	11.1	10.6	10.7	11.3	10.9	10.8	11.0	11.1	11.3	—
送迎利用者数	27	40	35	44	43	41	48	40	39	32	33	35	457

平成 29 年度は、在籍人数 19 名のスタートでしたが、通所できていない利用者 2 名が上半期に退所となり 17 名で活動を行ってきました。頂いた下請作業を皆で連携しながら丁寧に行い、地域の方や職員、ボランティアの得意分野を生かした各種教室も開催し、新しい体験として提供することができました。出来上がった作品は、公共機関や社会資源に展示しご家族や関係者などに見てもらおう機会を設ける予定です。

### 2. 日中活動

#### (1) 作業について

昨年と同様、新鮮卵の販売、自動車部品や消しゴムの袋詰めなどの下請け作業、機織りや縫製、編み物を使用した自主製品を販売しました。また、障害者支援センターより助成金を受けて、新たな製品の開発や制作を行うための教室を開催しました。その結果、利用者の個性あふれたバックを新たにオリジナル商品として加えることができました。

工賃収入の減少に対応しながらも、年度末には賞与を支給することができました。

#### (2) 生活プログラムについて

各種体験教室では、以前から希望のあった陶芸や木工作業を取り入れました。職員やボランティアが講師を務め、利用者とのコミュニケーションを図る良いきっかけとなりました。日帰り旅行では、絵画展や宇宙ミュージアムを見学し、様々な仕掛けがされている参加型の施設を楽しみました。

利用者向けの研修会を開催し「人とかかわり方」について学びました。毎回テーマを変えて、利用者同士がロールプレイを行い「この時どうする?」「この時どう思う?」など選択した行動により、ストーリーが変わるシミュレーション形式で行いました。また、講師のギターに合わせて一緒に歌い、ジャンケン大会を行うなどの楽しいプログラムが盛りだくさんで、参加した利用者からはとても好評でした。来年度も続けて開催する予定です。

開催年月	プログラム内容	
平成 29 年	4月	・機織り講習 ・エコクラフト教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（スパニッシュオムレツ・プリン） ・ベランダ菜園 ・歯科検診 ・お花見（桜撮影会） ・他施設見学（そよかぜの家）
	5月	・機織り講習 ・エコクラフト教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（煮物・牛乳寒天） ・ベランダ菜園 ・ふれあいスポーツ大会 ・体験教室（しぼり染め） ・収穫体験（潮干狩り）
	6月	・機織り講習 ・エコクラフト教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・ベランダ菜園 ・調理実習（サラダ・オクラ和え物・ナス味噌炒め） ・日帰り旅行（八景島シーパラダイス） ・ふくしまつり
	7月	・機織り講習 ・エコクラフト教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習（わらび餅・蒸しパン） ・給食交流会（横国大） ・茶話会 ・健康診断
	8月	・機織り講習 ・エコクラフト教室 ・レクホールスポーツ ・ぴっかり前日祭 ・調理実習（胡麻プリン） ・巡回相談（理学療法士） ・他施設見学（ぼれぼれ）
	9月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・調理実習（豚汁・オクラ納豆） ・合同体験教室（六ッ川中と味噌作り） ・ベランダ菜園 ・レインボーフェスタみなみ ・防災訓練
	10月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・レクホールスポーツ ・陶芸（茶碗作り） ・調理実習（オクラ納豆・焼きプリン） ・体験教室（蕎麦打ち） ・ベランダ菜園 ・赤い羽根共同募金活動 ・日帰り旅行（絵画展鑑賞・宇宙ミュージアム見学） ・他施設見学（にこにこみなみ）
	11月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・けんこう講座・レクホールスポーツ ・陶芸（茶碗作り） ・体験教室（蕎麦打ち・月餅） ・ベランダ菜園 ・収穫祭 ・オープンマーケット（横国大） ・本大岡地区主催行事（みかん狩り・里芋掘り）
	12月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・陶芸（茶碗作り）・体験教室（蕎麦打ち・木工スプーン） ・福祉の未来を考える集い ・他施設見学（にこにこみなみ） ・お店サンタ（弘明寺商店街スタンプラリー・自主製品販売） ・忘年会
平成 30 年	1月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・けんこう講座 ・レクホールスポーツ ・体験教室（絵手紙） ・初詣（弘明寺／若宮神社） ・新年会 ・利用者向け講習会（人とのかかわり方について） ・訪問看護（南区医師会） ・わっしょいフェステバル
	2月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・レクホールスポーツ ・体験教室（絵手紙）・調理実習（フォンダンショコラ・チョコレート） ・防災拠点訓練（大岡小） ・一時避難所訓練（中島町公園） ・利用者向け講習会（人とのかかわり方について） ・巡回相談（理学療法士）
	3月	・機織り講習 ・ぽんぽん鳥教室 ・レクホールスポーツ ・体験教室（絵手紙・どら焼き） ・調理実習（チョコパイ他） ・外出レク（花見・外食） ・利用者向け講習会（人とのかかわり方について） ・はみがき講習会（歯科衛生士）

### 3. 地域交流について

けんこう講座、地区主催行事などに参加しました。防災訓練では、14町内の他、ラフォーレさくらとして、人数点呼、報告をさせていただきました。イベントへの協力、設備提供、体験教室などの行事を通して、地域住民との相互理解の構築となりました。

開催年月	行事	場所	参加者	
平成 29 年	6月 けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ	
	7月 給食交流会	横浜国立大学付属 特別支援学校	横浜国立大学付属特別支援学校	
	9月 けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ	
	味噌づくり体験	ラフォーレさくら	六ッ川中学校 地域住民	
	収穫祭	大岡小学校	本大岡地区町内会	
	レインボーフェスタ	どんとこいみなみ	レインボーフェスタ実行委員会	
	11月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ
		みかん狩り・里芋掘り	金沢文庫	本大岡地区町内会
		オープンマーケット	横浜国立大学付属 特別支援学校	横浜国立大学付属特別支援学校
		月餅づくり体験	ラフォーレさくら	地域住民
福祉の未来を考える集い		横浜公園	市内作業所・活動ホーム グループホーム・当事者・家族・職員	
平成 30 年	1月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区作業所連絡会 南区高齢障害福祉課 スマイルクラブ
		わっしょいフェスティバル	南公会堂	横浜南陵ロータリークラブ 南区障害児者団体連絡会
	2月	防災拠点訓練	大岡小学校	本大岡地区町内会 地域住民
		中島町 3.4 防災訓練	中島町公園	地域住民
	3月	どら焼きづくり体験	ラフォーレさくら	地域住民

#### 4. 他機関や支援者間の連携

利用者の気軽に相談できる場所として応じていますが、生活上の不安や体調面の配慮、通院同行が必要なケースも多くなりました。ラフォーレさくらだけでは抱え込まず、定期的に行われる事務局会議を通して、障害者支援センターや障害者地域活動ホームの施設長の助言を受けながら一緒に考えてもらい適切なサービスに繋げていただきました。また、関係機関や行政と情報共有や現状の把握をするため、カンファレンスも行いました。

利用者が、負の感情を出した時の声の掛け方、会話の進め方、表情の捉え方などの対応方法を、職員やボランティア間で話し合う機会が少なかったと思います。今後は、定期的に話し合う機会を設け、支援者間の連携を促進します。

#### 5. 防災訓練について

「通所中に起きる災害に備え困った時に助けていただけるよう、年に数回行われる防災訓練やイベントへ参加し、地域の方々に利用者の顔を覚えていただくことをラフォーレさくらでは大切にしています」と事前に周知し、利用者の参加が増えました。

9月に行われた訓練では、救急救命や患者搬送訓練、防災関係の上映を視聴し、ダミー人形を使って実演をしながらAEDを学びました。2月に行われた訓練では、非常電話や簡易トイレの説明を受け、発電機操作や体育館のスペース作りなど、いずれも貴重な体験をすることができました。また、災害時給水所として緊急給水栓が整備されている公園へ移動し、水道局より説明を受けながら臨時に取り付けた装置を見学しました。

#### 6. 学習・研修参加

研修会や学習会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めました。

開催年月	研修・講演会名	場所	参加者
平成 29 年	4月 障害者差別解消法について	南区福祉保健活動拠点	阿部
	6月 顔の見える関係づくり	大岡地区センター	阿部
	7月 改正 障害者総合支援法の概要について ～何がどう変わるのか～	横浜市健康福祉総合センター	阿部 富田
	12月 意思決定支援について	南福祉ホームむつみ	阿部 富田



## 7. その他

南区総合庁舎1階にある「ふれあいコーヒーショップにこにこみなみ」で接客業務を行う利用者が増え、実際に客として店を利用し、他施設の接客の様子を見学して学んできました。店舗の入り口で販売している自主製品は、少しずつ注文が入るようになり「別の色や新作を待っています」と声かけもありました。製品販売を通して、作る喜び、売る喜びを体験しながらラフォーレさくらを知ってもらうきっかけとなっています。

### Ⅲ. 後見的支援センター とつかエコー

#### 1. 今年度の取り組み

##### (1) 支援内容の振り返りと整理

登録者数の推移は以下の通りです。

登録者数	前年度末	47名							
	今年度 上半期	19名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
			5名	3名	3名	3名	3名	2名	
	今年度 下半期	11名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			2名	4名	3名	0名	1名	1名	
今年度 終了	2名	(他区GHへ引っ越しのため・安心できるようになったため 終了)							
合計	75名								

今年度は、事業開始3年目を迎えるということもあって、支援内容の見直しと整理を行いながら活動しました。地域の方々に少しずつ制度理解をしていただき、様々な場面でのお付き合いが増えたので、登録者数は増加しています。“将来にわたるあんしん”という視点をどのような支援プロセスで、どのような支援効果を見据えて取り組めばよいのか。試行錯誤していますが、まだなかなか見えてきません。チームで統一した考えのもとに支援提供出来るように障害支援の在り方のみならず、地域を知りながら、地域と対話しながら進めていく必要性を感じました。

##### (2) 会議

横浜市・障害者支援センター主催の会議に参加しました。

「とつかエコー」内の会議としては、随時、情報共有と方向性の確認のための会議を行いました。支援手続きに偏ることなく、制度の目的や目指すところを確認しながら常に活動を振り返り、より良いものを目指していけるように支援チーム作りを意識して会議を行いました。利用者支援・アセスメントのための支援会議は月2回開催しました。管理者および推進法人の横浜市あんしんマネジャーにも出席いただき、支援上のアドバイスをいただきました。

### (3) (制度) 説明会

制度説明は、個別および集団で対応させていただきました。医療クリニックや区内の事業所、地域ケアプラザ、区社協あんしんセンターなど興味はあるけど、制度の内容がわからない。という方々から依頼があり伺って説明させていただきました。また、今後は特別支援学校の卒後の見守りや支援ネットワークとしての役割を担ってほしいとのご意見もあり、説明会を積極的に推進して聞きたいと思います。

### (4) 地域連携

これまで同様、戸塚区地域自立支援協議会等を通じて、また、自立支援協議会の枠内にとどまらない地域連携に取り組みました。

基幹相談支援センターやあんしんセンター、地域ケアプラザと連携会議を設け、個別に様々な状況を共有しています。その中から登録につながったケースもありましたが、戸塚の地域で起こっている現状も確認していき、親の高齢化、ひきこもった状態についての支援の在り方などそれぞれの機能を活かしながら地域づくりをしていくことの重要性も確認できました。

### (5) 組織体制

前年度、担当職員が責任者になり、より地域で幅広く活動することを意識して取り組みました。その他の人事については、4月にサポーター1名が退職し、新しい担当職員が入職しました。チームで支援していくことを意識して取り組みましたが、制度理解や具体的な支援手法などで共有していかなければならない課題を整理しました。

### (6) 研修

職員の基礎知識の獲得と、専門性を高める研修に参加しました。

毎月行われた『障害者支援センター』（市社協 ※推進法人）主催の「事例報告会」に参加しました。また、戸塚の地域で行われている研修に参加するなど地域の中での活動を意識して参加しました。

### (7) その他

“あんしんキーパー”は、制度理解をしていただいている地域の方になっていただきました。

	登録者数		
	前年度末	今年度	計
あんしんキーパー	1名	4名	5名

## IV. ホープ川上

### 1. 利用実績

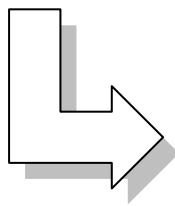
4月より東戸塚地域活動ホームひかりの日中活動を利用している方1名、10月より他施設の日中活動を利用している方1名と契約し、定員の6名で共同生活を送りました。6月に体調を崩し入院していた利用者は、8月より利用を再開しています。また、5月より本人の希望によりグループホームの利用をお休みされている方は、ホームで行う誕生日会にお誘いしました。ホームの生活を再開するまでには至りませんでした。が、楽しい時間を仲間と一緒に過ごしていました。

365日運営・夜間支援体制を整えたグループホームとしていますが、新しい環境に徐々に馴染んでいきたいというご家族の希望もあり、日中活動が休みとなる週末は自宅に帰られる方がほとんどでした。

#### 【平成29年度】

各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	25日	24日	26日	25日	24日	25日	24日	25日	25日	23日	23日	26日	295日
区分6※	20	13	22	20	20	15	21	14	20	19	19	21	224
区分5※	35	19	13	15	20	27	27	24	27	23	27	27	284
区分4※	25	24	26	25	24	25	46	43	43	40	39	45	405
区分3※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全利用者数(人日)	80	56	61	60	64	67	94	81	90	82	85	93	913

※総延べ利用者数(人日)



利用者の数		6人
内訳	区分6の利用者数	1人
	区分5の利用者数	3人
	区分4の利用者数	2人
	区分3の利用者数	0人

### 2. 職員体制

7月よりグループホームの担当職員1名を日中活動部へ、日中活動部の担当職員1名をグループホームへ異動しました。また、安定的な運営を図る観点から、バックアップ施設となっている東戸塚地域活動ホームひかりの職員も月に2~3回勤務に入り、万一の際に勤務に入れる職員が多くなるような体制作りを行いました。

### 3. 利用者支援

#### (1) 生活支援

慣れない家事を行いながらの共同生活でしたが、職員と一緒に家事を行うことで徐々に生活のペースが確立され、スムーズに家事を終えるようになっていきます。余裕が出てくると、食事の配膳や食器拭き等、共用スペースの家事にも入居者同士協力して取り組まれていました。

夕食後から就寝までの時間には居室にて趣味のパソコンをされたり、職員と一緒にテレビを見ながら談笑したりする等、それぞれが楽しく過ごされていました。

#### (2) 健康管理

利用者の表情等に細心の注意を払い、毎日入浴前と起床時に職員がバイタルのチェックを行いました。また、入浴時に体の状態を確認、軟膏等の塗布が必要な方に対しては職員が塗るようにしました。

インフルエンザが流行する時期には入居者全員分のコップを用意し、帰宅時のうがいと手洗いを徹底しました。また、感染症予防の為、3月より洗面所のタオルをペーパータオルに変更しました。

#### (3) 地域生活

東戸塚地域活動ホームひかりからグループホームまでの移動途中にある商店でおやつを購入したり、地元住民の方とすれ違う際に挨拶をする所から交流を始めました。最近では、朝の出発時によくすれ違う方に「いってらっしゃい」と声を掛けていただき、入居者も笑顔で応えるような様子も見られるようになりました。

#### (4) 学習・研修参加

職員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No	開催月	研修名	場所	参加者
1	7月	小規模社会福祉施設関係者（一人宿直） 防火安全研修会	横浜市防火防災協会研修室	田中
2	8月			小石
3	12月	知的障害の理解 ～グループホームでの関わり方～	横浜市開港記念会館	平 小石 長谷川 若杉（由）
4	1月	グループホームにおける金銭管理体制について		中瀬

## (5) 実地指導

平成 29 年度 共同生活援助の実地指導が実施されました。指摘事項については、改善を図りました。

- ◆日時 平成 30 年 2 月 23 日 (金) 9 時 00 分～14 時 45 分
- ◆担当者 健康福祉局 障害支援課 事業支援係 職員 4 名

指摘区分	要報告事項
1. 掲示について	運営規程を共有スペースに掲示すること。
2. 防災備蓄について	3 日分を目安に備蓄すること。
3. サービス提供実績記録票について	作成したサービス提供実績記録票は、必ず利用者に確認を受けること。また、確認印をもらう等、利用者が確認したことが分かるようにすること。
4. 契約書および重要事項説明書について	契約書および重要事項説明書に修正すべき点があるので、見直しを行うこと。